

令和6年度阿倍野区区政会議
福祉・健康づくり部会（令和6年7月19日開催）における主な意見等

令和7年度施策・方針に向けていただきたい意見

現在、地域福祉活動に関わっていない区民の「気にかける」意識を高め、行動につなげていくためには、どのような取組を進めていけばよいのかについて

○地域福祉活動について

- 身近に暮らす住民の存在や変化を気にかけるということは、課題だと思う。取り方によったらおせっかいということもあるし、気にかけないといけないとなると、誤解を生む恐れがある。
- 例えば、地域の認知症の方が徘徊している場合、地域の方がその人を知っていれば、服装の乱れなどを気にかけることが重要である。
民生委員として具体的な事例を知っているが、一般の方には分かりにくいので、具体的に書くべきである。社会のつながりが希薄な世帯や生活困窮者、認知症の方の存在の変化を気にかけることが必要だが、常に見ていないといけないと誤解される可能性がある。文言を「お困りの方をお見かけしたら」などに変えると分かりやすいのではないか。
- 地域福祉活動に参加したことがあるという方の割合が、20何%とあるが、自分が普段、地域福祉活動をしているという意識がなくてもやっているのではないのかなと思う。
そういう視点で、地域全体を眺めていくということも大事なことで、地域の中で意識して見て、盛りあげていこうというようなことかなと思う。アンケートだから数値になるとは思いますが、ただ、それだけではない。いろいろな関わりで、いろいろな暮らしの中で、地域福祉活動をみなさまがやっているという目をまずは持つことかなと思う。
- 一つの行動を区民の方が見て、自分としては当たり前のことをしていたんだけど、その行動を見た人からしたら地域福祉活動になっている、ということはしばしばあると思う。そういう活動を見ていただくことも一つのPRになるかと思う。
- 根本は教育だと思う。阿倍野区福祉教育プログラム集を教育現場に配布したら終わりということがほとんどだと思うが、その教材にどんなことが載っていて、どんな願いが込められているのかを共有し、どういうふうに活用されているのかを把握する必要があると思う。それをふまえて教員が自由に展開していくということだろうと思う。
実際に授業をしながら、この辺りがやっぱり弱いんと違うかとか、あるいはここが優れているよというようなことをやっていくと、行政と教育がうまくタイアップでき、福祉教育がより充実するように思う。
- 地域福祉活動がどんな活動か理解していない人が多い。
ふれあい喫茶や食事サービスや子どもの見守りをしていることが、地域福祉活動に参加しているということに気がついてない人が多い。
活動している方は、地域福祉活動をしているという意識はないと思うので、地域福祉活動を知っているかとアンケートで聞かれたときに、地域福祉活動をしているにまるはしないと思う。
- 福祉に関心を持つように、活動を知っている方を増やすことで、こんなことをやっているのかとなり、地域福祉活動に参加しようかなという気持ちになると思う。

○地域福祉活動について

- 地域福祉活動を担う部会が、地域によっては違うので温度差があると思う。
男性の方もなかなか参加されない。男性の方は、極力地域福祉活動に関心を持っていただきたい。やはり女性が多いので男性が入っていきにくいと思う。男性も活動に参加しているよとPRしていただきたい。
- 人数が少ないとか、広がらないとか、いろいろ出ているが、それでも一つの地域にとってみたら、やっぱり何十人かの人たちが動いている。それは本当に気持ちを持って、地域のみなさまの手助けにちょっとでもなるようなことをやろうという気持ちを持ってやる人がいることがとても大事なことで、どうやって広めていくかという目線で、やっていけばいいのではと思う。町会の役員が少なく、成り手が無い。現役の人たちは、忙しいので、役員をやること自体が難しいが、そんな中でも、やっぱり1人、2人とやってくれる。そういう人たちをこつこつと広げていくというのが町会の今の役割であり、それと同じことで、本当にこつこつ、食事サービスやふれあい喫茶をやり続けることがとても大事なことだと思う。
- 地域福祉活動に参加する人を増やしたいということで、参加していない人は、どんな活動をやっているかどれが地域福祉活動か知らない、紙で読んだところで、参加しようとはなかなか思わないので、具体的に地域福祉活動を見るなり、お誘いがあるって参加するなり、何かしないと参加者は増えないと思う。
参加している人たちが参加しそうな人をお誘いして、見るだけでもいいから来てもらう形で地域福祉活動を見てもらい、一緒にやると参加が増えると思う。
- 「3-1 のみんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」について、要援護者ほど自分はまだまだ大丈夫とっていたり、複合的な課題を有する人こそ、自分は福祉の対象ではないと思いついていたりするように感じている。
自分は特殊詐欺には遭わないと思いついているかのように感じている。身近な大切な人に教えてあげましょうというような間接的な呼びかけでニーズをあぶり出す必要があるように感じた。
フェーズフリーの推進として、障がい特性や高齢者特性など、地域が抱える課題に合わせた形で、まちなか防災訓練を行う際に地域福祉の重要性をもう少しアピールしても良いのかなと思う。

○地域福祉活動の情報発信について

- 地域活動への参加について、「広報あべの」を見て、掲載されている行事に参加したいと思う方もいると思うが、まず地元地域で老人会の方々が主催する、百歳体操等の行事を、実際に見学したり、チラシを見たりすることで、参加したいと思う方もあると考えるので、行事の案内を地域でどう発信したらいいかなと思う。

食事サービスに関しては、年に1回チラシを400枚作って配布するが、なかなか参加者が集まらない。

女性部長やボランティアも含めて登録者は45、6名になっているが、参加者は21名ぐらい。明日も食事サービスがあるが、参加者は14名に対しボランティアが21名で、ボランティアの方が人数が多い状況。参加者が少ない場合でも断れないので、食事サービスはにぎやかにやっている。地域の活動を一生懸命やっているが、なかなか参加者が少ない状況だ。

- 広報紙で、繰り返し同じことを周知するとか、お困りの方には具体的にわかりやすく呼びかけてあげないと、全然気がつかないことが多々あると思う。広報紙の紙面を増やすなり、いい活動を紹介するとやってみたいと思う方もいると思うので、広報が大事だと思う。
- 広報紙には、高齢者月間だけではなく、毎掲載してもいいと思う。みなさまにお知らせしていくというのは大切だと思う。

知っている者は知っている、見ない者は分からない。見ないから、分からないから、知らないじゃなくて、深く知ってもらいたい。

区政会議委員も情報を広めていく一つと考えてもらい、広く周知する方法を考えてほしい。

- 防災訓練は、東南海地震が、非常に身近に感じると思うので、参加への興味は高いと思う。ふれあい喫茶や食事サービスは、地域の温度差があると思うが、全く顔を見ない方とお会いできて、参加してみると楽しいこともあるので、参加するにはどのようにすればよいか、いつ開催するのかなどを広報したら、行きやすいと思う。広報紙は紙面が限られているが、具体的に広報すれば地域の方が行きやすいと思う。
- 広報紙の紙面に制約があるならば、私自身が発信していくべきと思う。私が百歳体操に参加して、そこで感じたことなどを発信していけたらと思っている。

○高齢者食事サービス等への参加について

- 高齢者の方が、食事サービスに月1回会館へ来て参加しているが、デイサービス等にいらっしゃる方などは、食事サービスに参加するために遠くに住んでいるお子さんが休んで付き添うよりも、週に何回か行っているデイサービスに行くほうが安心だという声を、ケアマネージャーに言われたことがあり、高齢者に会館まで来てもらうことは無理かなと思っている。

食事サービスに関しても、地域活動協議会の補助金の対象となり、このまま続けていっていいものか、私たちもどうしていくか考えているところである。

食事サービスに限らず、防災訓練など、どうしたらみなさまが参加ができるような魅力的なお声かけができるのかなと考えている。

○要援護者名簿について

- ・災害時等における要援護者への支援について、名簿作成の際にプライバシーの問題をどういうふうに押さえているのか教えてほしい。
しっかりと支援しなければいけない人を前もってマークしておくことは、すごく大事なことだが、個人の様々な情報に関しては十分な配慮が必要だと思う。
- ・要援護者名簿について、自分が望むならば、社会福祉協議会で申請書を提出していただけたら、要援護者名簿に登載される仕組みとなっている。
内容については守秘義務が守られる。近隣で要援護者名簿に登録したい方がおられたら、民生委員や社会福祉協議会の見守り相談室に申し出れば、要援護者として登録することができる。ただ、要援護者名簿を知らない方がいるということは、要援護者名簿の取り組みが大事なことであるということをもう一度、広く発信する必要があるかと思う。
- ・組織では、皆が共有しなければいけない情報があり、それは絶対に漏らしてはいけなものであり、どんな組織でも同じだと思う。
名簿についても、本人の意思を確認したうえで、記載した情報を受け止める。意思を表明できない方の対応はどのようにするか。

○つながりづくりについて

- ・「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」ということであるが、支援が必要になる前に地域でつながっていないと難しいのではないかと考えている。
支援が必要な人というのは、人との付き合いが下手な人が多いので、仕事をリタイアした時点ぐらいで何かに参加ができて、つながっていけばいいのかなと思うが、特に男性の場合、仕事をリタイアして、そのまま家で閉じ籠もっているというのが多いかなと思う。
家から出して、集まれば、支援を必要な人を把握しやすくなると思う。会社を辞めた後、何もしないという人に対して手を差し伸べるというか、その辺が足りないように思う。

○地域コミュニティづくりについて

- ・つえをついた高齢者や手押し車を使って通行している人をよく見る。最近では、外国人が近所のマンションに結構固まって住んでいて、一つの社会ができています。
習慣の違いがあり、新しい環境ができてきているが、実際にコミュニティをどうするのか、言葉も通じないし、高齢でなかなか動きが取れないので、地震が来たら右往左往するしかないのかなと思う。
いろんな機関の人たちとつながって、困った時に相談ができる体制を地域の中で作っていく必要があると思う。
支援が必要な人たちがたくさん増えて、その一方で、働いている人は忙しくて昼間はいない状況で、なかなか複雑な問題がいろいろ出てきて、相談できる体制を1歩2歩でも前に進められたらいいと思う。

令和7年度施策・方針に向けていただきたい意見

- 一人一人の健康意識を高め、主体的に健康づくりに取り組んでいただくため、どのような取り組みを進めていけばよいのかについて
- イベントや地域活動の新規参加者の開拓に向け、どのような情報発信が効果的なのかについて

○健康づくりイベントの周知について

- 「3-2の地域ぐるみで誰もが元気に暮らせる健康づくり」について、広報紙では、毎月、食育につながる「あべのカフェ」のコーナーや、「今月は〇〇月間です」という案内があるが、「今月は階段使用を推奨する月間です」というような健康に関するコーナーもつくって見たらどうかと思う。
- 健康寿命の延伸につながるよう、作業療法士や薬剤師さんにもご協力いただいて、通勤や通学時間を利用したプチ健康づくりイベントの案内を区広報紙で紹介することも、イベントの担い手の意識向上と区民の健康意識アップの両方に効果があるように思う。

○事業のターゲットについて

- 私は大阪府の食育にも関わっており、食育を展開する行事にも関わってきた。また、公衆衛生学を専門としているが、その中で「個人」と「集団」というものの考え方を分けてやっていくというものがある。区政会議に参加してみて、区政会議福祉・健康づくり部会というのは、集団で捉える場合もあるだろうし、個々で捉える場合もあるため、その両方を合わせていくと、うまくいくのではないかなと思っている。

阿倍野区将来ビジョン（素案）に対する意見

○将来ビジョンについて

- ・防災は具体的な取組みなので分かりやすいが、福祉活動については、イメージが湧いてこない。
「3-1 みんなで支えあう地域づくりと相談支援体制の充実」の「今後の施策展開の方向性」と、この「成果目標」との関係で、施策を推進するために成果目標「支援を必要としている人に支援が届く社会をめざす」がどう関連するのか。全体のイメージが湧いてこないなので、具体的に地域が何をしていくか、どうしたらいいのかと思っている。

その他の意見

○不登校の対応について

- ・学校になじめないなどの悩みを抱えた子どもの居場所として、今はまだ木曜日だけのぴあ・ほーむを月曜日にも拡大していただけたらうれしく思います。ぴあ・ほーむが難しい場合には、クールダウンできるスペースの利用だけでもご検討をお願いしたい。家にも学校にも帰れず、人気のない学校周辺をうろついて、非行や犯罪に巻き込まれたりする子どもを未然に防ぐためにも、早急なご検討をお願いしたい。

○地域活動について

- ・広報紙でも、町会に入りましょうという記事があり、みなさんに町会に入ってほしいと思っている。地域活動協議会の活動は、町会に入っていないなくても、みんなが参加でき、敬老の日などは記念品がもらえるんだと思っている方もおられるようで、町会加入の声かけがすごく難しいなというところはある。
- ・町会に加入していないと情報が入らないことが結構あると思う。
- ・文の里地域は、地活協も地域振興会も最初からずっと一つでやっている。
文の里は地域内に、幼稚園二つ、高校二つ。ただし、義務教育の小学校と中学校がないので、PTA活動や、学校を借りることができないため、お互いが助け合って、何かあったら幼稚園を借りる、高校を借りるということで、お互い助け合っている。ただ、若手のボランティアがないので、地域活動をされている方の息子さんや娘さんが担っているのが現状である。
- ・地域活動協議会ができるということになったときに、連合町会は徐々になくなって、地域活動協議会に一本化になるのかなというような話を聞いていたので、今やっていることに関して、地域活動協議会の防災・防犯であるとか食事サービスもやっていて、今日はどっちの活動に参加しているのかわからなくなるようなことがある。